

観たい！

トライアスロン大会ルポ

West Australian Summer Triathlon Series #4 - Fremantle Triathlon (2016年3月20日開催)

トライアスロン大会は、西オーストラリア州でも頻繁に行われています。その中でも毎年夏季に行われているのが『West Australian Summer Triathlon Series』。ここでは、今期4大会目「Fremantle Triathlon」の大会ルポを日本人トライアスリート武田正俊さんを中心にお届けします。

West Australian Summer Triathlon Series

主にトライアスロンの大会を運営する Sports Performance が主催するトライアスロンシリーズ（大会）。1990年に始まり、西オーストラリア州では最も長く行われているシリーズで、年間全5大会が11～4月の夏季に行われ、毎年約3,000人ものトライアスリートたちが参加している。

「私たちが開催している大会は、長い距離の種目ではなく、初心者でも挑戦できる短い距離を主としたものばかりです。チームでのリレー形式でも参加できます。皆さんぜひ、気軽に参加してみてください！」

大会主催者
Sports Performance
イベントディレクター

Stephen Doyle

ステファンドイルさん



トライアスロン歴29年、在パースの日本人トライアスリート。今レースで613レース目を迎える武田正俊さん。現在は体操のコーチとして、パーソナルトレーナーの過去も持つ。「年齢、性別関係なく、私は毎レース真剣に勝負しています」とお話された武田さん。



今大会に出場した日本人
トライアスリート

たけだ まさとし
武田 正俊さん



この大会でのスイムは、FremantleのBathers Beachにコースが設けられました。



スタート地点へと向かう大会参加者たち。この後、種目別に競技が開始された。



自然環境の中で行われるトライアスロン。今大会のスイムは、海で行われた。

トライアスロンでは、【スイム】【バイク】【ラン】の順に行なわれる。



スイムを終える武田さん。





スイム・ゴールをくぐり、トランジションエリアへと急ぐ武田さん。

スイムを終え、浅瀬からビーチに上がりスイム・ゴールを目指す参加者たち。



バイクラックのところまで休まず歩を進める武田さん。



今大会のトランジションエリアは、The Esplanade。トランジションの間も競技に含まれるため、素早い着替えが重要となる。



レースナンバーやヘルメットを素早く着ける。



バイクシューズは、バイクのペダルに装着しておくので、バイクコースへは裸足で移動。一秒もタイムを無駄にしない武田さん。





バイクのコースは、Fremantleでもお馴染みのカプチーノ通りに平行して走る Marine Terrace。アップダウンがなく、初心者にも走りやすいコースとなっている。



“バイク乗車ライン”を超えて、バイクに乗る参加者たち。ラインを超えなければバイクには乗れないというルールがある。



学校のクラブ単位での参加者も多く、子どもたちの姿も目だった。



沿道にはたくさんの人々が詰めかけ、参加者に声援を送った。



Fremantle の街を颯爽と駆け抜ける武田さん。



大会種目によっては、Marine Terrace を周回する参加者も。コーナーを回り、2 周目に入る。

バイクが通るたび、路面とタイヤの摩擦音が沿道にも響き、迫力が伝わった。



普段は大勢の観光客で賑わう Fremantle の街が交通整備され、安全に大会が運営された。



ランは、Fishing Boat Harbour 沿いの Mews Road。観覧車を背景に、港に面したコース。



“バイク降車ライン”より手前でバイクを降り、トランジションエリアへ。



バイクを押して、次のランのためトランジションエリアへと急ぐ、参加者たち。

老若男女が参加した大会。参加者の大会に対する目的も楽しむためのレジャーから記録を意識した競技と幅は広い。



バイクをトランジションエリアに置き、次はランに入る。大会スタッフが参加者を誘導する。



ランは最終種目とあって、満身創痍の参加者の姿も。

2008年に足首の故障を患い、それ以来、「短い距離のレースに参加するようにしています」と武田さん。朝日を浴びながらスピードを緩めない。



女性参加者も多く、沿道でベビーカーを押す男性と子どもから「Go Mam!」といった声援がかけられていた。



ラストパートで一気にゴールまで駆け抜ける武田さん。

残る最後の力を振り絞る。



見事ゴールし、笑顔が溢れる参加者たち。



スイム・バイク・ランと3種目を終え、ゴールへ！



ゴール後、待っていた家族とハイタッチをする参加者。



トライアスロンを通しての旧友と握手で、健闘を称え合った武田さん。

大会主催者から、参加記念品とフルーツなどの軽食が配られる。



大会を終え

ゴール直後の武田さんに感想を伺いました。

「実はランの時、きつくて…、歩いてしまおうかという気持ちも一瞬、頭を過ぎりました。でも、そこはなんとか踏ん張って、最後まで走り切ることができました。今回もレース中は、自分よりも前にいる選手を抜き、抜き返されないようゴールを目指しました。また、次回の大会に向けて、トレーニングを続けたいと思います」

